

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子どもの環境・郷土学習に関わる事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人信州ふるさと郷育ネットワーク 長野県長野市徳間 1168 番地 27
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	702,644 円 (うち支援金: 489,000 円)

事業内容

地域活性化の担い手となる子どもたちに郷土の特性やよさ、伝統等をより身近に引き寄せて考え、授業での子ども同士のやりとりや親子の会話を介して、お互いに郷土のよさ、魅力を感じ得る機会を設けることがやがて郷土を誇りに思い、自信を持って「ふるさと」中野市として発信していく原動力となると考え、「中野市ふるさとドリル」を作成し、市内全小学校3年生へ無償配布を実施。

◇「中野市ふるさとドリル」の作成

4月～5月…市内小学校の社会科(中野下高井社会科同好会)の先生方、学生による監修

6月～8月…関係機関(中野市、中野市教育委員会、JA中野市、信州中野商工会議所等)による監修

9月…印刷 10月…中野市内小学校へ配布



【中野市ふるさとドリル表紙】

【目標・ねらい】

① 早々、中野小学校3年生の郷土学習の授業で活用され、「こんな所があったんだ」「中野市の農産物はすごい」との声を寄せてもらった。「中野市ふるさとドリル」は郷土学習の1つの機会の提供であり、社会科の授業が始まる3年生のみの配布という限られた学年での配布であったが学校側や3年生に予想以上に興味を持って受け入れてもらった。新聞でも取り上げてもらい、小学3年生のみではなく他学年へも配布してほしいとの保護者からの声もいただいた。

・ドリルを家に持ち帰った3年生が親子で学習することを通して、今後、中野市にまつわる話題が日常飛び交うようになり、そのことが中野市理解を深めることにつながっていくことを感じさせた。

・新聞報道での影響もあり中野市以外の一般市民の方も「中野市のよさ」を知りたいという関心が広がっている。

② 子どもたちが毎日食している給食の食材の6割が中野市産であることを「ふるさとドリル」の学習から知り、「食育の日」の献立に一層興味関心を持ち、その味覚を味わうことで自分の住んでいる土地で取れた食物に対する愛着を深めつつある。

① 授業や家庭で活用することによる郷土学習の充実と郷土の良さを味わい郷土への愛着と自信を深める。

② 月1回の学校給食「食育の日」と併せた啓発喚起と地域食材による郷土のよさの感得。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・ 小学校3年生だけでなく、他学年や小さな孫にも読ませたい、との頒布要望をいただいた。
- ・ 次年度も是非継続発行して授業や家庭で扱わせてほしいと学校から要望をいただいた。

今後の取り組み

・ 郷土学習は学習効果に時間がかかり、他学年との情報共有も不可欠であることを考えると次年度も継続して配布していくことが最低条件となる。そのため、市内団体・企業・個人へ「将来を担う郷土の子どもたちのために」より多くの人たちが協賛してもらえるよう次年度改訂版発行に向けての活動を継続していく。

・ 数年継続発行ができた段階で「小学生向け中野市ふるさと検定」を実施し、より前向きに自分の郷土を知ろうとする場を設定していきたい。

・ ドリルで取り上げている食材に関しては「農業体験」で、文化財関係では「社会科見学」の形で当法人が仲介し、子どもたちがドリルを通して「郷土中野市」を頭で学習するだけでなく、土や農産物、文化財に直接触れ、五感を通して「ふるさとのよさ」を体感できる環境を設定していきたい。